

研究プロジェクト成果報告書

研究課題 教員養成における身体性を重視した教材開発の試み
—音楽・美術・体育における身体技法の体験プロセスを問う—

研究期間 平成26年度～平成27年度

研究代表者	芸術・体育教育学系	教授	阿部 靖子
研究組織	芸術・体育教育学系	准教授	大橋 奈希左
	芸術・体育教育学系	准教授	玉村 恭
	学校教育学系	講師	城間 祥子

研究プロジェクトの概要

教師の実践知が経験の積み重ねの中で培われる身体化した知であるといわれるとき、教員養成における「身体」にかかわる知の形成の重要性を主張できるであろう。本研究プロジェクトでは、まず、東西の身体技法に基づくワークショップを企画・実施し、それらの学習プロセスを分析する。そして、明らかにされた学習プロセスに基づき、音楽・美術・体育教科に共通する小学生向け教材を開発し、授業実践を行い、その有効性を検討したい。

本研究プロジェクトは、教師の実践知の形成を、音楽・美術・体育の各領域における「身体性」の捉えから明らかにし、そのプロセスを従来からの「運動学における観察法」と「教育研究における参与観察」の接点から探るところにオリジナリティがある。そして、明らかになったプロセスから、音楽・美術・体育、さらにはすべての学習の基盤となるような教材を開発することは、分断化されてしまった子どもたちの身体性を取り戻す重要な提案となるであろう。

研究プロジェクトの成果

平成26年度の研究実践としては、平成27年2月に学外講師による身体技法のワークショップ（音楽・美術・体育の基となる身体技法）を実施し、参加した学生・大学院生が体験した過程を学習プロセスとして質的に明らかにしたことがあげられる。講師である遠藤卓郎先生は東洋の身体技法、特に「気功」を使って教えることの実践者、そして研究者として著名な方であり、充実したワークショップが行われた。さらに、受講者自身が書いた振り返りカードを用い、「からだの感じの自己観察」について検討し、振り返りカードの有効性を実証することができた。また、講師である遠藤卓郎先生から振

り返りカードについて多くの指導を受けることができ、それらを次年度の研究に生かすことができたことも、成果としてあげることができる。

次に、平成27年度は、平成28年1月に学外講師を招聘し、J市立0小学校において、小学校3年生約50名を対象としたワークショップ「からだ遊びと表現運動」を実施した。講師の原田奈名子先生は、東洋の身体技法「操体法」と西洋の身体技法「Body-Mind Centering」の研究者であり、数多くのワークショップを実践している人である。ワークショップの実施にあたり、小学校の教材としての有効性を検討し、その評価方法の一つとして昨年度の研究をもとにした学習カードの作成を行った。さらに、参与観察の気づきをもとに、小学生の学習プロセスを分析し、学習カードの情報を加え、考察を行った。以下、授業の流れと、学習カードから考察される教材としての有効性について示す。

1 J市0小学校ワークショップ「からだ遊びと表現運動」の実施報告


日 時：2016年1月15日（月） 13:50～14:40

場 所：0小学校体育館






参加者：第3学年児童50名







指導者：原田奈名子先生（京都女子大学教授）

内 容：

時刻	活動内容	動き、発話等	写真
13:50	開始の挨拶		

	活動①からだ であそぼう！ (うで)	2人組になり、お互いに足を踏 まれないようにする	
		「元気かな」と言いながら、 自分の身体（腕や胸、脚）を トントンとたたく。「振ると体 が元気になる」	
		右手で左手の手首を持って振 る動きや、腕をぶらぶらと振 る動き	
		両手を前に伸ばして、振った ほうの腕が長くなっているこ とを確認する	
		反対の手も同じようにする	
14 : 03	活動②「1・ 2・3」からは じまるリズム あそび	3人組になりジェンカの動き (片足を斜め前に出して、戻 す)	
		前の人と少し離れていき、バ ラバラになって、前の人がい るつもりでジェンカの動きを する。	

		音楽にあわせてジェンカの動きをする。	
14 : 13	活動③「1・2・3」からはじまる表げんあそび	2人組になり、「1・2・3」と数える。「3」と言う代わりにポーズをする。	
		「3」でポーズを、交互に繰り返す。	
		だんだん離れて、体育館全体を広く使いながら、ポーズ。	
		「1・2」も言ったつもりで、交互にポーズ。	
14 : 25	ストレッチ	開脚して背伸び	

		<p>脚を手で持って伸ばす。反対の足も同じように。「体とお話ししようね。どこが伸びてるかな？」</p>	
		<p>あぐらをかいて、前に伸びる動き</p>	
		<p>正座をして、横にお尻を落とす動き</p>	
		<p>立ち上がって大きく伸びる動き</p>	
14 : 28	ワークシート記入		
14 : 38	担任の先生、見学の先生からのお話	<p>「音楽にあわせて動くのが得意ですね。いい表情をしていました。」「あまり小学校ではしない運動だったけれど、上手でした。」</p>	

14 : 40	授業終了のご挨拶		
14 : 42	授業後	原田先生に体の柔らかさをアピールする子ども	

2 学習カードからの考察

子供たちには、質問に対して、はい・いいえで選択する3項目と、自由記述の欄がある学習カードに記入してもらった。学習カードから、次のようなことを読み取ることができた。

- ・活動①からだであそぼう！（うで）については、腕が長くなって不思議だという感想や、からだが暖かくなったという感想が多かった。
- ・活動②「1, 2, 3」から始まるリズムあそびについては、1, 2, 3のリズムが楽しかったという記述が多く、ジェンカのリズムがからだのリズムと響き合っていたようである。
- ・活動③「1, 2, 3」から始まる表げんあそびについては、3の代わりにポーズをとることにより、思いがけないからだの動きを作ることができていた。

このように、子供たちが自分の「からだ」に気づいていく様子を示す言葉が多く見られたことと、からだの動きを意図的ではなく表現につなげていったことが大きな成果としてあげられる。そして、音楽・美術・体育の基盤となる身体技法の体験プロセスを重視した教材は、児童の学びに大きく貢献することがわかった。